

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	処置論 I	学年	1
講師名	中田敏宏、池田淳也、境純平、吉田英明	時間数	90
		単位数	6
		コマ数	45

教科目標

救急現場での使用資機材の基本操作・使用方法を理解する。
 資機材の使用方法から現場での対応能力を向上させることができる。
 誤った使用方法による傷病者への侵襲を理解し現場での事故防止策を各自で練ることができる。
※実務経験のある教員等による授業科目となる。

講 義 内 容	1	パルスオキシメータ
	2	カプノメータ
	3	カプノメータ
	4	聴診器
	5	血圧計
	6	心電図
	7	心電図
	8	体温計
	9	気道確保
	10	気道確保
	11	気道異物除去
	12	気道異物除去
	13	口腔内の吸引
	14	声門上気道デバイスを用いた気道確保
	15	声門上気道デバイスを用いた気道確保
	16	気管挿管
	17	気管挿管
	18	気管挿管
	19	気管吸引
	20	酸素投与
	21	酸素投与
	22	人工呼吸
	23	人工呼吸
	24	胸骨圧迫
	25	胸骨圧迫
	26	自動式心マッサージ機の使用
	27	除細動
	28	除細動
	29	静脈路確保と輸液
	30	静脈路確保と輸液
	31	アドレナリン投与
	32	アドレナリン投与
	33	自己注射用アドレナリンの投与
	34	体位管理
	35	体位管理
	36	体温管理
	37	止血
	38	止血
	39	創傷処置
	40	創傷処置
	41	固定
	42	固定
	43	固定
	44	産婦人科領域の処置
	45	産婦人科領域の処置

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A)	A(90点以上): 教科目標を高い水準で達成している。	} 単位認定
		B(80～89点): 教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点): 教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点): 教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格): 教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	ショック・循環不全		学年	2			
講師名	境 純平	時間数	30	単位数	2	コマ数	15

教科目標

生命維持に重要な「ショック・循環不全」に対し、分類とその判断方法を知る。
 ショックに伴い起こる生体反応、特に体液の移動による補整を理解する。
 血圧低下に対し交感神経およびカテコラミンの働きを理解する。
※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	総論～定義と概念、種類と分類
	2	総論～病態、ショックの判断
	3	総論～各種ショックの判別、緊急度・重症度の判断、各種ショックの共通の観察と処置
	4	循環血液量減少性ショック～発生機序、循環動態の変化、生体反応、体液変動
	5	循環血液量減少性ショック～原因疾患、症候、現場活動、輸液
	6	心原性ショック～原因疾患と発生機序、循環動態
	7	心原性ショック～症候、現場活動
	8	心外閉塞・拘束性ショック～原因疾患と発生機序
	9	心外閉塞・拘束性ショック～症候
	10	心外閉塞・拘束性ショック～現場活動、輸液
	11	血液分布異常性ショック～種類と発生機序
	12	血液分布異常性ショック～症候
	13	外傷の病態生理 侵襲への反応 循環動態、炎症性メディエータ
	14	外傷の病態生理 侵襲への反応 代償反応の破綻 急性期後の障害
	15	外傷の病態生理 外傷に伴うショック 出血性ショック 非出血性ショック

評価方法	終講試験など			
評 価 基 準	新 評 価 A P G)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	}	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	処置論Ⅱ					学年	3
講師名	工藤 朝生	時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標 平成26年4月に救急救命処置に追加された「心肺停止前の静脈路確保と輸液、血糖測定とブドウ糖投与」の理論を学ぶとともに、今後予想される課題を含めた対応についての実践的な知識を検討する。 実務経験のある教員等による授業科目となる							
講 義 内 容	1	意識障害の鑑別（1）					
	2	意識障害の鑑別（2）					
	3	意識障害の鑑別（3）					
	4	ブドウ糖投与					
	5	血糖測定とブドウ糖投与のプロトコール					
	6	薬剤投与プロトコール					
	7	静脈路確保の実際					
	8	拡大処置の実際と今後の課題					
評価方法		終講試験など					
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考		救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する					

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	救急災害医療	学年	1
講師名	佐藤友彦	時間数	15
		単位数	1
		コマ数	8

教科目標

わが国における救急自動車による救急搬送の現状、概要の理解。
 救急医療機関の役割と要件の理解。
 災害の定義、分類の理解。

※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	救急医療体制(病院前医療)
	2	救急医療体制(救急医療システム、救急医療情報)
	3	災害医療体制(トリアージ)
	4	災害医療体制(大規模災害、特殊災害)
	5	病院前医療体制(救命の連鎖、市民による一次救命処置)
	6	病院前医療体制(市民教育、メディカルコントロール)
	7	救急救命士に関する法令
	8	救急救命士の養成と生涯教育
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	} 単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	精神障害	学年	3
講師名	三瓶 泰子	単位数	1
		コマ数	8

教科目標

精神障害の特殊性の救急搬送時の留意点などを中心に学ぶ。
※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	精神障害・精神病の定義。
	2	内因性・外因性精神障害。
	3	心因性精神障害、精神症状。
	4	救急活動、搬送の原則。
	5	自殺企図、昏迷・混迷・興奮への対応。
	6	病院選定と入院形式。
	7	悪性症候群、統合失調症。
	8	躁鬱病、心因反応、その他の精神障害。
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	(新 G P A)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
単位認定			
備考			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	患者搬送		学年	1
講師名	中田敏宏	時間数	15	単位数
			1	コマ数
				8

教科目標

通信指令室の役割、口頭指導の概念・方法、活動記録、他機関との連携について説明できる。
 病院前救護の役割、概要、救急救命士の医療関係職種としての責任を説明できる。
 出勤～現場の流れ、状況・初期評価、現場～救急自動車収容・医療機関収容の搬送方法を理解する
実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	消防機関における救急活動の流れ
	2	救急救命士の役割と責任
	3	現場活動の基本
	4	搬送総論
	5	搬送方法
	6	器具を用いた搬送
	7	搬送手順
	8	ヘリコプターへの傷病者の搬入と搬出、事故車両からの救出方法
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	} 単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	熱傷・電撃傷	学年	3
講師名	池田 淳也	時間数	15
		単位数	1
		コマ数	8

教科目標 熱傷・電撃傷の病態生理と救急処置法を中心に学ぶ。 <u>実務経験のある教員等による授業科目となる</u>			
--	--	--	--

講 義 内 容	1	皮膚組織の構造。
	2	熱傷の種類。
	3	重症度分類、簡易識別法。
	4	熱傷面積の算定。
	5	気道熱傷と一酸化炭素中毒。
	6	救急処置、冷却、その他。
	7	電撃、アーク放電、火焰、雷撃。
	8	搬送時の留意点。まとめ。

評価方法	終講試験など			
評 価 基 準	新 評 価 A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	}	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	顔面外傷					学年	3
講師名	境 純平	時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標 顔面の解剖生理、外傷の特徴、救急処置法などを中心に学ぶ。 <u>実務経験のある教員等による授業科目となる</u>							
講 義 内 容	1	顔面の解剖生理。					
	2	顔面損傷、吹き抜け骨折。					
	3	頸部損傷、軟部組織損傷。					
	4	口腔内・気道損傷。					
	5	症状と処置。					
	6	判断と処置、搬送。					
	7	気道異物。					
	8	消化管異物。					
評価方法		終講試験など					
評 価 基 準	新 評 価 A G P A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考		救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する					

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	微生物学	学年	3
講師名	三瓶 泰子	単位数	1
		コマ数	8

教科目標

炎症と感染の説明、炎症の定義・原因、感染症の原因と感染経路が説明できる。
 感染経路別の感染予防法、標準予防策、消毒、事故後の対応、法律指定の対応を説明できる。
 予防接種、感染症の一般的症候、感染症の疫学・症候・特徴的疾患・予後について説明できる。
実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	炎症
	2	感染症
	3	感染予防と感染防御
	4	救急活動での感染防御
	5	洗浄と消毒
	6	感染事故と事故後の対応
	7	感染症総論
	8	その他の感染症
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法	終講試験など			
評 価 基 準	(G P A)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	}	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	看護学概論		学年	1			
講師名	三瓶泰子	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

医療における看護の位置づけと役割、在宅療法の概念、種類、対応について説明できる。
 傷病者とのコミュニケーションの技法、医療機関とのコミュニケーションの要点を説明できる。
 事故の発生におけるヒューマンエラー、インシデント・アクシデントのハインリッヒの法則を説明できる
実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	接遇とコミュニケーション
	2	対象に応じたコミュニケーション、救急活動でのコミュニケーション
	3	安全管理と事故対応
	4	感染予防
	5	在宅療法とは、在宅療法への対応(HOT, 在宅人工呼吸、気管切開)
	6	在宅療法への対応(植え込み型ペースメーカー、経管栄養、IHV)
	7	在宅療法への対応(血液透析、腹膜透析、尿道カテーテル、人工肛門)
	8	講義の復習、国家試験の過去問解説、終講試験について
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	} 単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	精神障害					学年	3
講師名	三瓶 泰子	時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標 精神障害の特殊性の救急搬送時の留意点などを中心に学ぶ。 <u>実務経験のある教員等による授業科目となる</u>							
講 義 内 容	1	精神障害・精神病の定義。					
	2	内因性・外因性精神障害。					
	3	心因性精神障害、精神症状。					
	4	救急活動、搬送の原則。					
	5	自殺企図、昏迷・混迷・興奮への対応。					
	6	病院選定と入院形式。					
	7	悪性症候群、統合失調症。					
	8	躁鬱病、心因反応、その他の精神障害。					
評価方法		終講試験など					
評 価 基 準	新 評 価 A G P A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考		救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する					